

【所属名：能生事務所 有線テレビ係】

【会議名：令和5年度第3回放送番組審議会・有線テレビジョン放送施設運営委員会】

会 議 録

作成日 令和6年3月21日

日	令和6年3月19日(火)	時間	9:30~11:00	場所	能生生涯学習センター 2階 第1会議室
件名	議題1 報告事項 (公開) (1) 今冬の障害発生状況について (2) 光電変換装置の更新について (3) 光伝送路の点検について (4) 糸魚川市地上デジタル放送等共同受信施設について 議題2 審議事項 (公開) (1) 令和6年度事業計画について (2) 令和6年度番組編成計画について (3) 放送番組審議 ア「縁あっていといがわ暮らし」について イ「新春お国自慢大新年会2024」について				
出席者	【出席委員】 5名 放送番組審議会・有線テレビジョン放送施設運営委員会委員 猪又委員、川合委員、齋藤委員、真見委員、丸山委員 【事務局】 6名 総務部 渡辺部長 総務課 大平係長 能生事務所 高野事務所長、武藤係長、池亀主査、磯谷主査				
	傍聴者定員	— 人	傍聴者数	— 人	

会議要旨

1 開会 (9:30) 高野事務所長
2 総務部長あいさつ 渡辺総務部長
3 会長あいさつ 齋藤会長
4 報告事項 (1) 今冬の障害発生状況について (2) 光電変換装置の更新について (3) 光伝送路の点検について
【事務局】資料No.1に基づき説明
【出席者】意見等 委員)更新が進んでいることによって、光電変換装置の障害が減っていると理解した。 引込線の障害についても、減少傾向にあるように読み取ったが、これ以上障害が減る要

素はないのか。

事務局) 引込線の障害は、強風や降雪の影響を受けやすい。近年は小雪のため、障害の件数が少なめとなっている。

委員) 能登半島地震による被害状況など、光ケーブルの点検は行ったか。

事務局) 地震による断線などは特に報告はないが、3月に入って実施している定期点検で業者に伝送路関係の点検を委託している。今回の伝送路点検は、能生谷地区を中心に行っているもので、対象外の海岸地区で異常を発見した場合には、ご連絡いただきたい。

委員) 今回の能登半島地震による、加入者宅への引込線等の被害はなかったか。

事務局) 断線の報告はないが、外壁の留め具が外れ、引込線が脱落したというケースがあった。

委員) 光電変換装置を更新してから、それまで映っていたBSの無料チャンネルが映らなくなったという話を聞いた。画面の映りが薄くなったという人もいた。どのようなことが考えられるか。

事務局) 交換したことにより電波の受信状況はよくなる。これまで、電波を強くするブースターを設置していたお宅では、出力が強くなりすぎて一部のチャンネルが映らないというケースが数軒あった。不具合があった場合は、係へご連絡いただきたい。

(4) 糸魚川市地上デジタル放送等共同受信施設について

【事務局】資料No.1-2、1-3に基づき説明

【出席者】意見等

委員) 糸魚川・青海地域での脱退は、どんな理由が多いか。

事務局) 一人暮らしの加入者が亡くなられたとか、施設に入所されたことによる脱退が多い。市街地周辺の新幹線高架橋の影響による難視聴エリアでは加入が増えているが、逆に山間部では脱退が増えている。

委員) 人口減少とともに、能生地域も糸魚川・青海地域も今後、加入者の増加は見込めず、加入者負担が大きくなることが懸念される。

委員) 糸魚川市地上デジタル放送等共同受信施設の使用料はいくらか。

事務局) 1軒につき月額500円いただいている。

使用料と、NTT東日本への光ケーブル貸付料でランニングコストを賄っている。

5 審議事項

(1) 令和6年度事業計画について

【事務局】資料No.2-1、2-2に基づき説明

【出席者】意見等

委員) 予算編成を見ると、加入者の減少やランニングコストの増加などで厳しくなっていると感じる。将来を見据えた対策は考えているか。

事務局) 市議会の予算審査特別委員会でも議論となった。収入が減って行けば、事業費縮小の検討をしなければならないかと考える。

現状としては、光電変換装置の更新で施設修繕費を抑える努力をしているところ。

今後、場合によっては使用料の改定なども検討しなければならなくなるが、今のところ、交付金を活用するなどしており、長期計画をしっかりと立てて事業の安定を図りたい。

委員) 使用料改定について、時期や金額など具体的な予定は決まっているか。

事務局) 改定するには、時間をかけて加入者の皆様に丁寧に説明し、ご理解いただく必要があると考える。

事務局) 改定する場合、単純に値上げするのではなく、付加価値を付けるなどしてご理解いただくことが、ケーブルテレビだけでなく、体育施設や他の使用料にも言えることだと認識している。

委員) 付加価値を上げず単純な値上げだけなら、住民サービスとしてはマイナスを意味すると考える。

事務局) パージョンアップとか、リニューアルとかのタイミングが理想である。

(2) 令和6年度番組編成計画について

【事務局】資料No.3-1、3-2に基づき説明

【出席者】意見等

委員) 令和6年度の特集番組について、新しい計画はあるか。

事務局) 市制施行20周年、フォッサマグナミュージアム開館30周年の節目の年。まだ具体的なことは詰めていないが、関係課と連携して制作したい。

委員) 「縁あっていといがわ暮らし」で紹介する移住者の候補は上がっているか。

事務局) 当初は、移住者のネットワークを生かし、出演者が次の出演者を紹介するスタイルを考えていたが、年齢や職業、地域に偏りが出る可能性があるため、回ごとに出演者の選定を行っていききたい。

委員) 地域のことを把握している地区長さんなどから、情報収集してはどうか。

自薦でも他薦でも、何人か候補者をリストアップしておけば負担が軽くなる。

委員) 能生中・海洋高校出身力士の活躍がめざましい中、幕下以下も含めて場所中の取組をケーブルテレビで放映することはできるか。

事務局) 放映するには、日本相撲協会やNHKの許諾が必要で、審査が厳しいうえ著作権や放映権といった多額の権利金が発生すると聞いており難しい。

委員) NHKや民放テレビで放映されているものを、撮影し放映するのはどうか。

事務局) それも、同じ理由で放映できない。

パブリックビューイングの場合、テレビ観戦している視聴者の様子は映せるが、テレビ画面は放映できない。高校野球も同様だと聞いている。

(3) 放送番組審議

ア「縁あっていといがわ暮らし」について

【事務局】資料No.4-1に基づき説明

【出席者】意見等

委員) インタビューで、話を引き出すことができていた。

委員) 質問ごとに、区切りの効果音や静止画を取り入れていたが、前半はコマ切れの印象。インタビューを細かく区切らず、言葉も文字テロップ表示するとわかりやすかった。話の内容に合わせた写真や動画をインサートしたことで、イメージが湧き伝わった。今回は室内でのインタビューだったが、出演者の話に出てきたおすすめの方法、思い入れのある場所など、屋外で話を聞けたらよかった。

事務局) 合間の音楽や静止画による区切りは、番組のダラダラ感を出さないように入れたが、逆にコマ切れになってしまった。

文字テロップについては、編集時間の都合上、挿入できなかった。

撮影場所については、都度、工夫していきたい。

委員) インタビュアーも画面に入って、ゲストとの対談形式にした方がよかった。

今回は、場所的にも殺風景だったので、なおさらそう感じた。花をアクセントに置くだけでも違ったのではないかな。

委員) ゲストの「糸魚川に住んでいると気づかない魅力がたくさんある」という言葉が印象的だった。小さなことでも、取り上げたり気づかされたりすることが大事なことだと思う。

委員) 同じく、対談形式の方が和やかな雰囲気になって、よかったのではないかなという感想。

インタビュアーのマイクのレベルが低く、聞き取りづらいところがあった。

糸魚川のことを、住んでいる人たちの方が知らないこともあると気づかされた。

委員) 知らない土地に行った時に、力になり得るのが「若い人」「がむしゃらな人」「他所から転入してきた人」と聞いたことがある。こういう人達に力を貸してもらえれば、ひと皮むけたまちづくりや取り組みができるということ。新しい気づきが多くあった。

とかく、地元についてネガティブな考えや、都会への憧れを聞いたりするが、ゲストは、地元民では気づかない糸魚川の魅力や多様性のある考え方を高校魅力化コーディネーターという職業を通して、高校生に伝えてくれていることが素晴らしいと感じた。

事務局) 対談形式については、今後検討していきたい。

番組の趣旨に沿って、今後も、糸魚川に暮らしていると当たり前と感じてしまっている糸魚川の魅力を、ゲストから引き出す構成・インタビューに努めていきたい。

イ「新春お国自慢大新年会 2024」について

【事務局】資料No.4-2に基づき説明

【出席者】意見等

委員) 笑いを交えていたほか、スタジオで補足情報を入れたり、文字テロップで会話を強調したりすることで臨場感が出て、面白かった。

正月は、地震の影響で落ち着いてテレビを見ることができなかったので、再放送をお願いしたい。

委員) 日本ケーブルテレビ連盟信越支部で共同制作した番組で、お年玉プレゼントの応募期間の兼ね合いもあり、当初の申し合わせとしては、放送期間は1月末までの取り決めであった。再放送は、糸魚川市が担当したコーナーは可能であるが、他局が制作したコーナーは、許可が必要になると思う。

委員) 最近の傾向として、ドローンを使った撮影が多い。ドローンを導入する予定はあるか？

事務局)今のところ導入する予定はないが、個人的に持っている方や関係機関に協力していただくことも検討したい。

委員)ドローンを持っている方の中には、様々な撮影のチャンスを待っている方もいるのではないかと。例えば、能生地域の低山も景観が素晴らしいので、協力してもらいたいと思う。

6 その他

【出席者】意見等

委員)趣味で沖釣りに出かけることがあるが、最近イルカの群れをよく見る。迫力があって、地域の魅力の一つになり得ると思うので、コンテンツとして撮影できないか。

事務局)自然相手、生き物相手なのでタイミングが難しいと思うがご意見としてお聞きする。

委員)地域密着型のケーブルテレビは、災害時に効果を発揮する。元日の能登半島地震では、どのような対応だったか。

事務局)発災日から数日は、市の職員として避難所の運営やパトロール、ブルーシートの配布、相談電話の受付などの業務を優先した。

ニューストピックス、及び文字テロップでは、被害調査や罹災証明書の発行、相談窓口の案内、道路交通情報、交通機関の運行情報など生活情報を逐次お伝えした。

事務局)地域密着のテレビ局であるが故に、地域の方が事故や災害の被災者や当事者になった場合、リアルタイムで報道することで、限定されてしまうなど難しい問題がある。

一方、防災という面では、地域密着のテレビ局だからこそできることも多くある。

委員)防災・減災のためのケーブルテレビの活用を期待したい。

例えば、避難経路を撮影して動画で周知するという活用方法も提案したい。

事務局)この度の地震では、想像以上に津波の到達が早かった。より迅速な情報伝達、更に、避難場所への情報伝達の手段が課題の一つ。様々な媒体を使った情報伝達の方法を今一度検証しなければならない。

動画コンテンツであるケーブルテレビでは、津波に対する避難・誘導の方法、ハザードマップの周知などに有効と考える。

委員)能登半島地震の際に、個々に撮影された画像が多くあると聞く。今後、被害状況を検証する意味でも、それらを集約して編集し、放送することで教訓につながるのではないかと。地域住民がみんな情報共有し、今後のために学習できるように、情報提供を呼び掛けることも検討してもらいたい。記録として残すこともできる。

委員)広報としての大切な役割を果たす意味からも、毎月19日の防災行政無線「火災予防の日」のように、繰り返し周知徹底し危機管理に努めることが必要である。

事務局)6月には糸魚川市総合防災訓練を計画している。情報伝達についても考える機会と捉えている。

委員)海洋高校がノドグロの稚魚を育成し放流を行った。素晴らしい取り組みなので、取材してニュースとして取り扱ってもらいたい。

事務局)学校に情報提供をお願いし、取材を進めたい。

7 閉会 (11:00)